

週報

2021年度 教会標語

「信仰に支えられて、共に生きよう！」

<先週の説教から>

『ヘブライ書⑦—悪魔を滅ぼすために』

ヨブ記 4:12~21 ヘブライ手紙 2:14~18

この手紙は《ヘブライ人＝ユダヤ人・ユダヤ教徒》に向けて書かれています。当時、これらの人たちの中に天使崇拝が行われていたということは以前紹介しました。天使の存在が強調されることは、同時にその対極にある悪魔や悪霊の存在もまた強く意識されるようになります(＝テレビでもヒーローが活躍するために手強い悪役もいるように)。

《悪魔》という存在を当時の人たちはとても身近に感じていたのです。その状況が今日の箇所にも反映されています。「子ら(＝私たち)は血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのもの(血と肉)を備えられました。それは死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隷の状態にあった者たちを解放なさるためでした」と。これは、イエス様がこの世界に人として来てくださったことが《血と肉》を持たれたということを強調している言葉です。それは、天使もそして悪魔も霊のような存在であり《血と肉(＝実際の体)》を持っていないからです。あたかも幽霊のような存在だと言ってもいいかもしれません。でもそれ故に、一方で得体が知れない存在として必要以上に恐怖を覚えてしまう面があります。イエス様でさえも荒野で誘惑を受けられたように、私たちにもいろいろな場面や状況で悪への誘惑や誘い掛けを及ぼします。この箇所の悪魔という言葉は原文ではデアボロスですが、これは讒言や批判を投げ掛けるという言葉から来ています。そうすることによって人や神様や自分さえも信じることを止めさせ、他者との関係が疎遠となり、頑固で孤独な状態に人をさせるのです。そうなれば悪魔の思うつぼです。疑いもなく『これしかない』と悪魔の誘いに乗ってしまうのです。特に辛い出来事や困難や理不尽なことに出会ったときには人は、自暴自棄になり、悪魔の誘いに乗ってしまうのではないかと思います。

そんな私たちに対して、イエス様は《血と肉》を持って生きてくださったということを忘れないようにしようとして言われているのです。即ち「(イエス様)御自身、試練を受けて苦しめられたからこそ、試練を受けている人たちを

助けることがおできになるのです」と。私たちの困難や切羽詰まった状況を分かってくださり、弱く愚かな私たちの側にもちゃんと居てくださり《孤独にさせない》と！

しかも、特に人が悪魔を恐れてしまう原点として、今日の箇所で言われているのは、得体のしれない幽霊のように「死の恐怖」を与えることだと。その恐怖から『なにかも空しい』や『どうせやっても無駄だ』と『神様なんていない』等と思ってしまうと。しかし、感謝すべきことは、イエス様はまさにその死から復活してくださり、私たちに天への道＝永遠の命への道を開いてくださったのです。それは、もはや必要以上に「死」を恐れる必要はないというメッセージ＝福音ではないでしょうか。イエス様は人の姿のままに「神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となつて」くださっています。この地上に生きる私たちはもはや悪魔を必要以上に恐れることはないのです。

【今週の集会】

●聖書研究・祈禱会 I. 3月16日(水) 20:00

II. 3月17日(木) 10:30

聖書: エゼキエル書

祈禱主題: 地区総会(書面開催) 埼玉地区を覚えて

担当者: (水) 真田 (木) 吉岡

祈る人: 佐藤さん 真田さん

【教勢報告】

主日礼拝 男 21 女 58 計 79

祈禱会 I. 男 5 女 2 計 7

祈禱会 II. 男 4 女 8 計 12

日曜学校 休校

ハンナの会 3月8日(火) 男 3 女 6 計 9

【次週礼拝】 3月20日(日)

聖書: 民数記 14:11~19

ヘブライ人への手紙 3:7~13

説教: 「ヘブライ⑨—今日、あなたが神の声を聞いたなら」 武田真治 牧師

讃美歌: 297(1)、32、471(1と4)、393(1と2)、92(1)

【次週当番表】

司式: 羽倉長老 奏楽: 山中 礼拝: 金刺長老

献金: 兼川 金刺 受付: 鈴木 森本

会堂準備: 小杉 冨澤 長田 橋本

北條

看板: 土門 週報: 吉岡 お花: 羽倉

【次週集会予定】 礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後: ・オリブの葉編集委員会 日曜学校教師会

2022年 3月 13日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL& FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>